

第2回とちぎの元気な森づくり県民税事業評価委員会

とちぎの元気な森づくり県民税事業(第2期) 中間見直しについて

令和4(2022)年11月
栃木県環境森林部環境森林政策課

1 検討工程

(1) スケジュール

(2) 検討フロー

2 課題

(1) 第1回県民税事業評価委員会で確認された課題

(2) 意向調査結果

3 課題の整理と対応の方向性

1 検討工程

(1) スケジュール

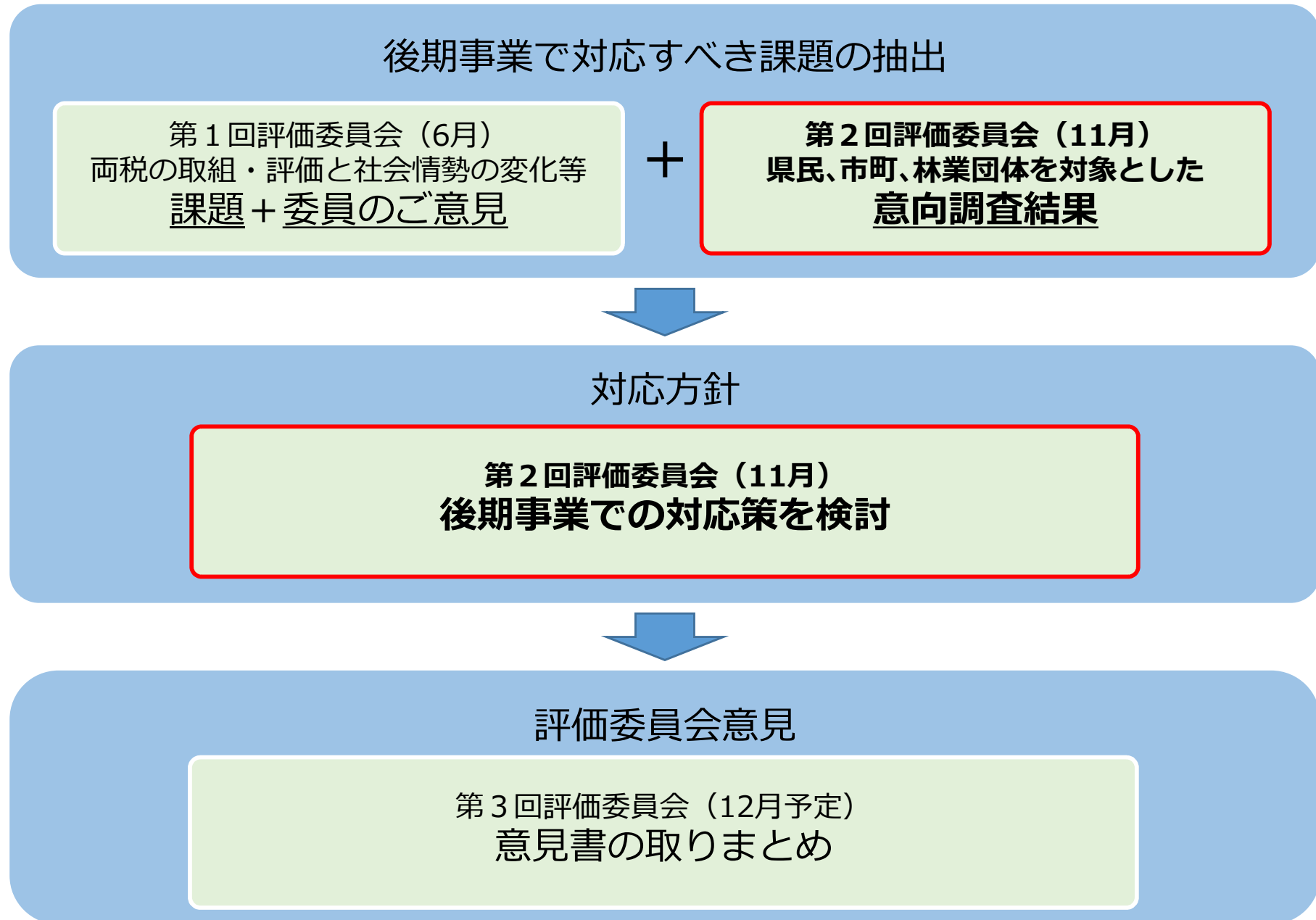
内 容	令和4(2022)年度									
	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
R3 事業評価	● R3事業実績					● 評価報告書(案)				
中間見直し	● 第1回 現状・課題					● 第2回 課題 対応方針	● 第3回 意見書(案)			
意見照会等 (県民・林業団体等)										

市町意見照会 県民・林業団体アンケート

意見とりまとめ

1 検討工程

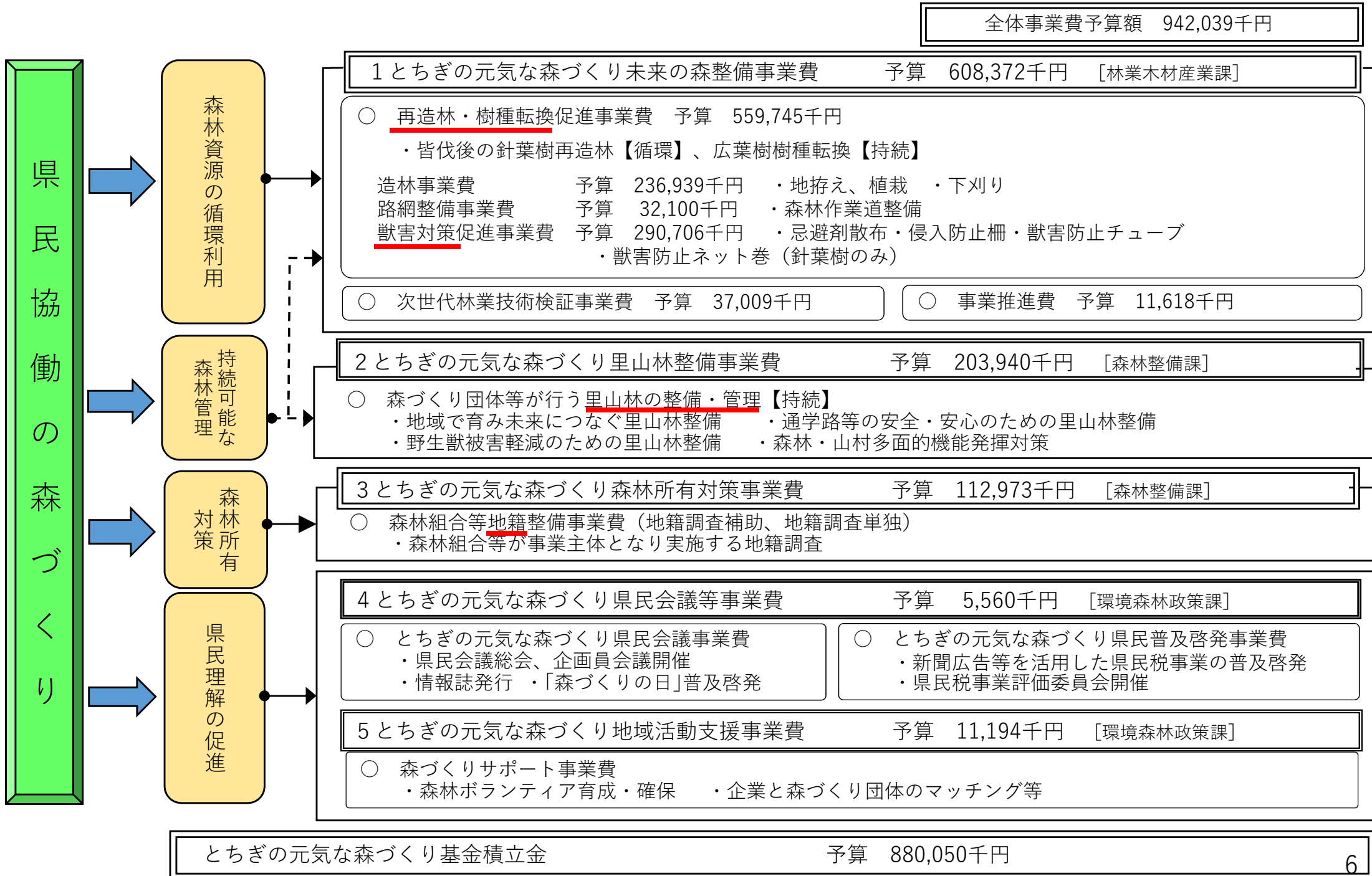
(2) 検討フロー



県民税と森林環境譲与税との用途整理（R2年度事業～）

取組内容		県民税事業	森林環境譲与税事業		
			県事業	市町事業	
森林整備	経営林	皆伐・再造林の促進 (皆伐後の植栽、下刈、作業道整備の支援)	○	—	—
		獣害対策 (シカ等による食害・剥皮害対策)	○	—	—
		地籍調査 (境界・所有者の明確化)	○	—	—
	非経営林	間伐等の森林整備 (管理されていない森林を公的に管理)	—	—	○
里山林整備 (雑草木の刈り払い等の支援)	市町主体	—	—	★	
	NPO団体等主体	○	—	—	
森林整備 促進策	人材の確保・育成		—	★	★
	木材利用の促進 (県：県公共施設・民間施設、市：市町公共施設)		—	★	★
	森づくりに関する普及啓発等		—	★	★
	県民税のPR等		○	—	—
市町の森林整備支援		—	○	—	

★：県民税から移行した事業



参考資料：第1回評価委員会資料

譲与税とのすみ分け時のあり方
検討会からの意見等（R元当時）

森林の若返り

- ✓ 山地災害等の発生リスク増が懸念
⇒ 高齢化した森林の若返りを進めること
災害に強い森づくりを進める必要

森林所有対策

- ✓ 森林所有者や境界不明の森林が増加することで、森林整備や災害復旧等に支障が生じる恐れ
⇒ 森林所有者や境界を明確化する取組を強化する必要

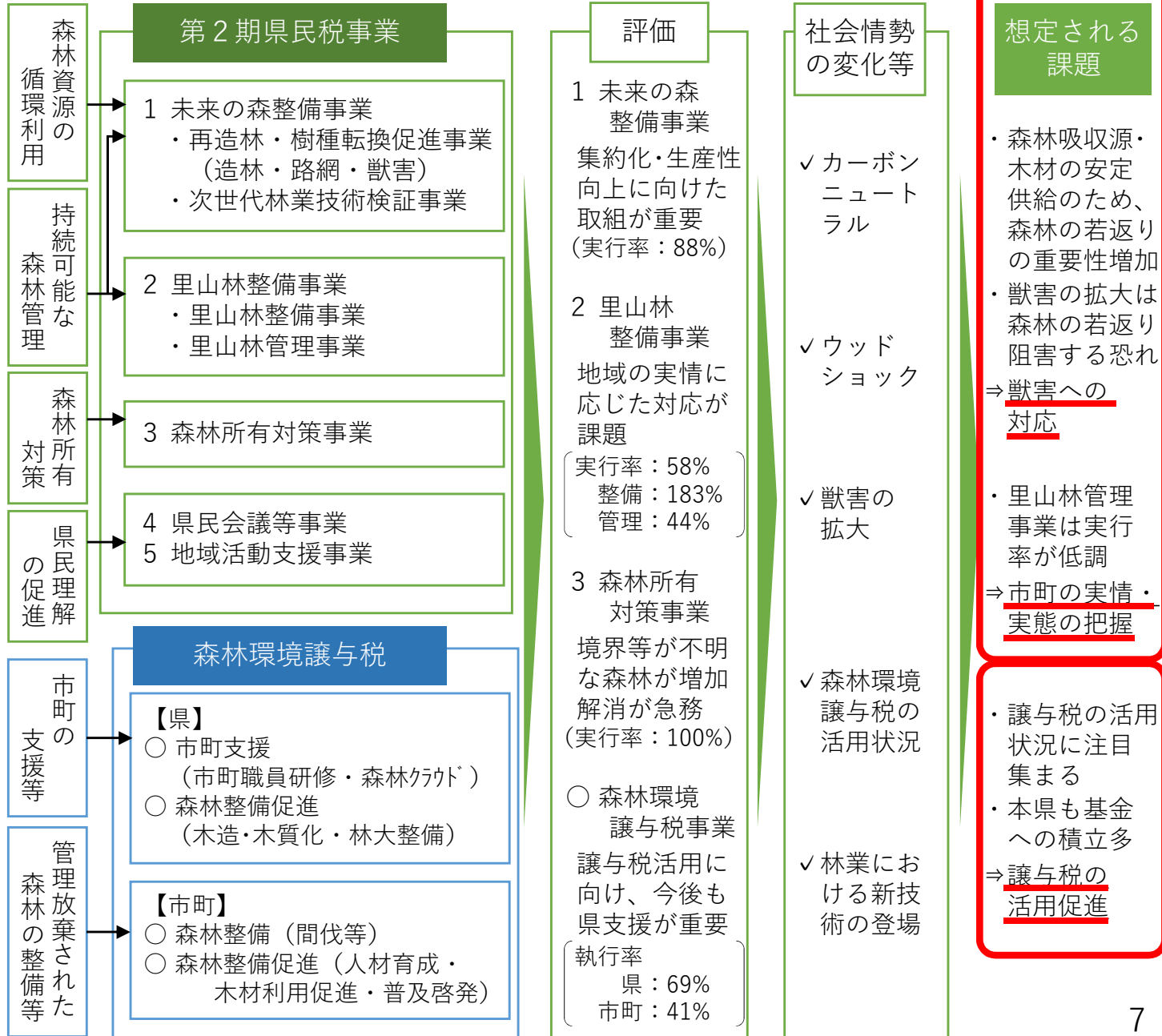
野生獣被害防止対策

- ✓ 県北東部へのシカの生育域拡大に伴い、森林の公益的機能への影響が危惧
⇒ 野生獣被害防止対策の拡充等が必要

その他

- ✓ 森林の若返りや森林経営管理制度導入に伴う森林整備量が増加
⇒ 譲与税の活用も含めて、林業労働者の確保・育成等への取組が必要
- ✓ 住民に身近な里山林の維持管理においても、地域のニーズ等を踏まえて対策を検討すべき

両税の取組・評価と社会情勢の変化等



2 課題（1）第1回県民税事業評価委員会で確認された課題

① 課題（両税の取組・評価と社会情勢の変化等）第1回評価委員会での課題

〈県民税〉

【未来の森整備事業（獣害対策）】

- 獣害の拡大が森林の若返りを阻害する恐れ

【里山林整備事業（整備・管理）】

- 里山林管理事業の実行率が低調

〈譲与税〉

【森林環境譲与税の活用】

- 譲与税の活用状況に注目集まる中、基金への積立が多い状況（5割程度）

② 委員のご意見

〈県民税〉

【未来の森整備事業（獣害対策）】

- 森林組合等から情報を収集し現場に合った対策を講じることが必要

2 課題（2）意向調査結果

意向調査概要

	方法	対象者	調査事項
県民	とちぎ ネットアンケート	県政モニター (448名)	<ul style="list-style-type: none">・重要と考える森林の働き・税事業での取組・重要と考える税事業の取組・税事業の課題、強化すべき事業
市町	<ul style="list-style-type: none">・アンケート調査・聞き取り調査	市町職員 (25市町担当職員)	<ul style="list-style-type: none">・税事業の課題・強化すべき事業・新たに取り組むべき事業
関係団体等	<ul style="list-style-type: none">・アンケート調査・聞き取り調査	林業、木材産業団体 経済界、消費者団体 森林ボランティア団体 (計26団体)	<ul style="list-style-type: none">・税事業の課題・強化すべき事業・新たに取り組むべき事業

2 課題（2）意向調査結果

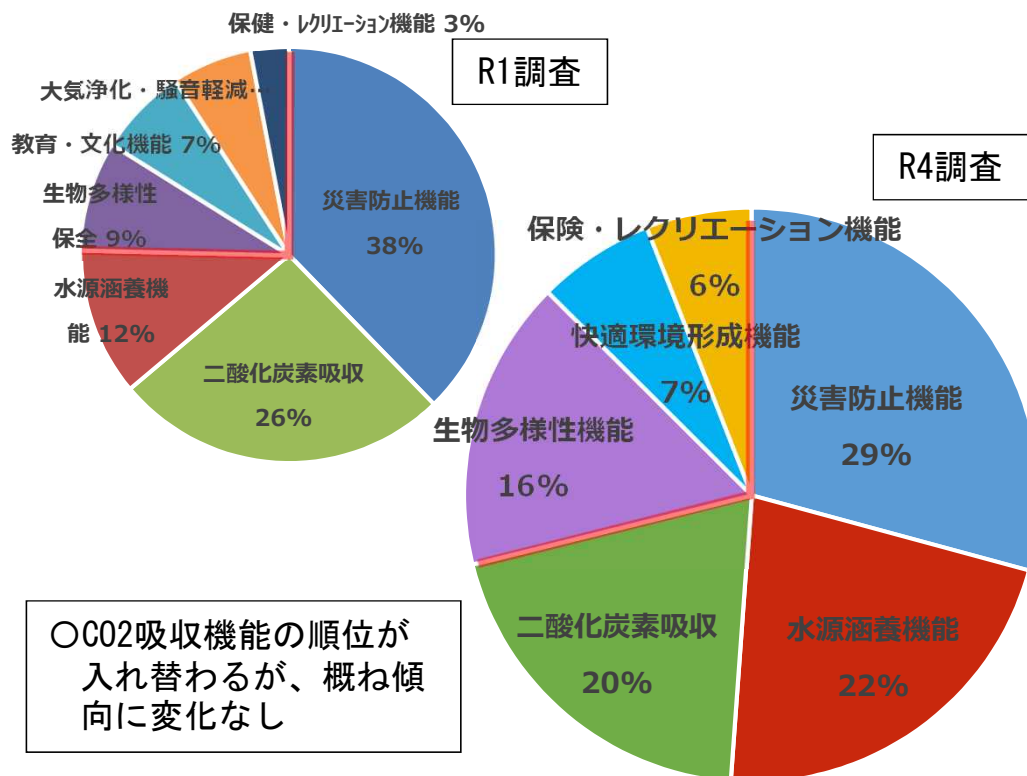
○ 県民・市町・関係団体への意向調査結果

① 県民（ネットアンケート） 448名

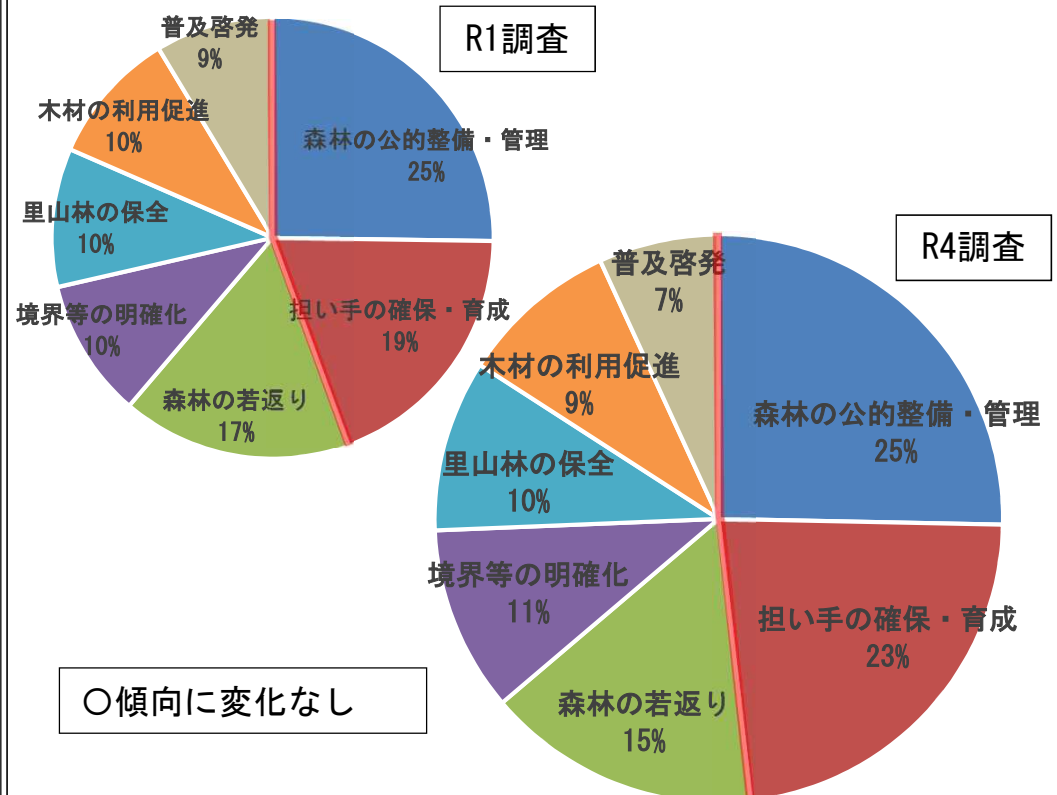
○ 森林で重要な機能は 「災害防止機能」「水源涵養機能」「地球環境保全機能」

○ 両税に期待する取組は「管理できず放置された森林の公的整備・管理」
「森づくりの担い手の確保・育成」

森林に期待する役割



両税に期待する役割

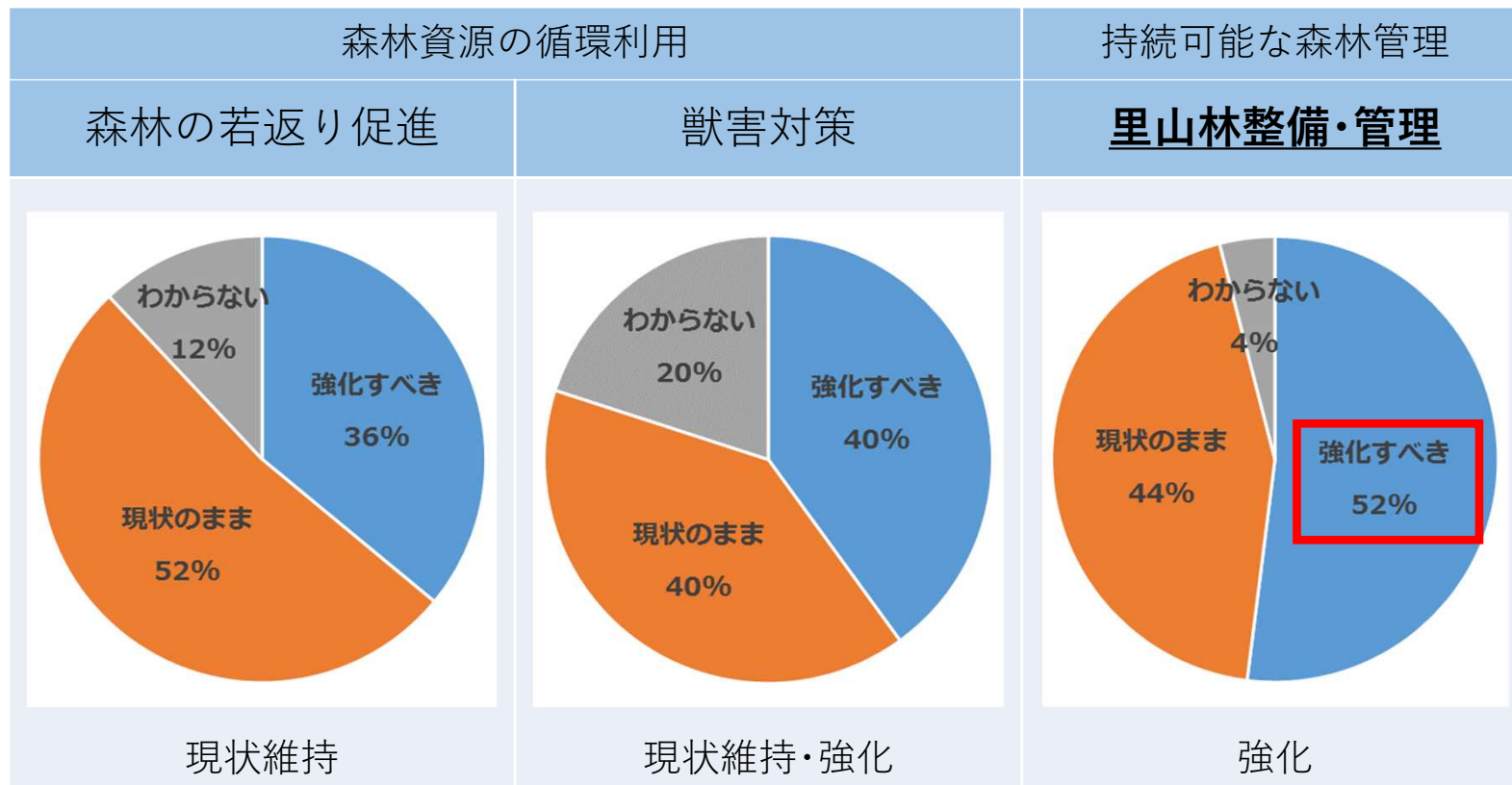


2 課題（2）意向調査結果

○ 県民・市町・関係団体への意向調査結果

②市町（意向調査・聞き取り）25市町担当職員

○強化すべきと回答があった取組で「里山林整備・管理」が52%と高い割合



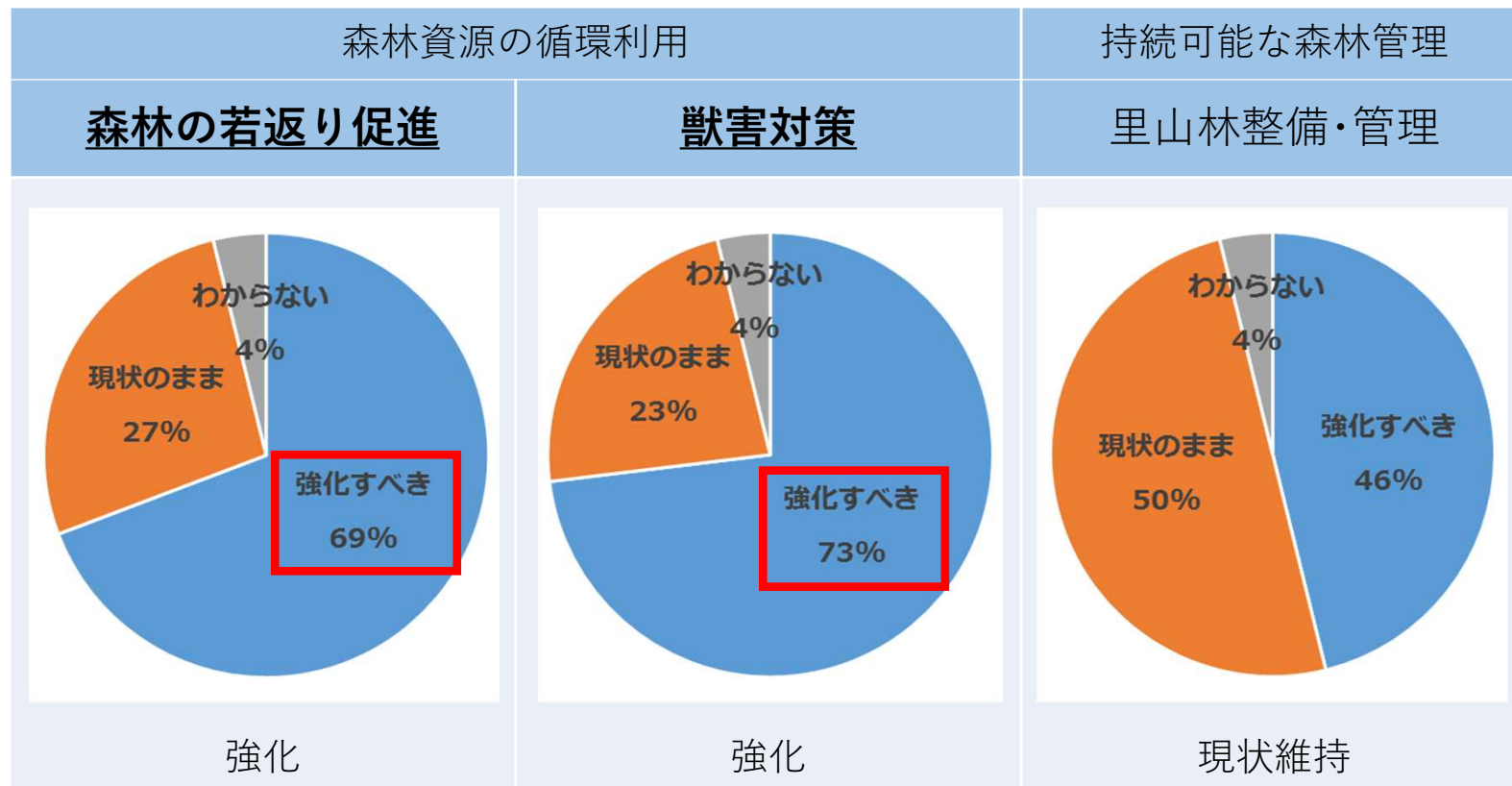
主な聞き取り結果：里山林整備・管理の交付期間(5年間)の延長、境界の明確化等への支援

2 課題（2）意向調査結果

○ 県民・市町・関係団体への意向調査結果

③関係団体（意向調査・聞き取り）26林業団体等

- 強化すべきと回答があった取組で「獣害対策」「森林の若返り」が上位
- 労働意欲が減退するため、ヤマビルの防除方法を確立してほしいとの意見あり



主な聞き取り結果：ヤマビル防除、ナラ枯れ被害拡大が懸念、物価高騰を踏まえた資材単価の改定が必要

2 課題（2）意向調査結果

○ 県民・市町・関係団体への意向調査結果（概要）

① 県民（ネットアンケート）448名 ※前回のR元調査と比較し大きな変化なし

- 森林で重要な機能は 「災害防止機能」「水源涵養機能」「地球環境保全機能」
- 両税に期待する取組は「管理できず放置された森林の公的整備・管理」
「森づくりの担い手の確保・育成」

② 市町（意向調査・聞き取り）25市町担当職員

- 強化すべきと回答があった取組で「里山林整備・管理」が52%と高い割合

➤【里山林管理の低調な理由：市町聞き取り結果】

- H30~R01：森づくり活動団体の再結成、土地所有者との再協定が必要で調整難航
- R02~R03：担い手の高齢化等に加え、コロナ禍の影響により活動が低調

○とちぎの元気な森づくり里山林整備(整備・管理)事業（市町交付金）

生活環境に身近な森林において森づくり団体が行う森林整備・管理を支援。事業期間を5年間とし交付金が終了した後も持続可能な活動ができるよう期間内に人材・資金確保を計画的に行う(自立)こととしている。

③ 関係団体（意向調査・聞き取り）26林業団体等

- 強化すべきと回答があった取組で「獣害対策」「森林の若返り」が上位
- 労働意欲が減退するため、ヤマビルの防除方法を確立してほしいとの意見あり
- 広葉樹林化への阻害要因となるため、ナラ枯れ等の被害拡大が懸念される

3 これまでの実績と評価（H30～R3）

1 未来の森整備事業

○計画1,640haに対し、実績1,443haで実行率約88%

H30～R2評価報告書：施行地の集約化・生産性の向上に向けた取組が重要
R3評価報告書：皆伐の阻害要因となっている獣害等への対応が重要

2 里山林整備事業

○計画17,155haに対し、実績9,944haで実行率約58%

内訳) 整備事業：実績3,160ha/計画 1,728ha 実行率約183%
管理事業：実績6,784ha/計画15,427ha 実行率約 44%

H30～R2評価報告書：後継者不足と地域の実情に応じた対応が課題
R3評価報告書：活動が低調、持続可能な活動への支援が重要

3 森林所有対策事業

○計画2,304haに対し、実績2,304haで実行率100%

H30～R3評価報告書：境界等が不明な森林が増加、解消に向け迅速な対応が重要

4 課題の整理と対応の方向性

検討が必要な項目	これまでの実績・課題等	評価委員会における意見	関係団体・県民・市町からの意見	対応の方向性
未来の森整備事業	<ul style="list-style-type: none"> ○これまでの実績 H30～R3実績：1,443ha（実行率88%） ○課題 <ul style="list-style-type: none"> ✓施行地の集約化・生産性向上に向けた取組が重要 	<ul style="list-style-type: none"> ✓獣害による若返り阻害 ✓現場に合った対策 	<ul style="list-style-type: none"> ✓主に団体からの要望が多い ✓資材単価の見直し ✓ヤマビル被害 ✓ナラ枯れ被害 	<ul style="list-style-type: none"> ➤現場に合った獣害対策を検討
里山林整備事業	<ul style="list-style-type: none"> ○これまでの実績 H30～R3実績：9,944ha（実行率58%） ○課題 <ul style="list-style-type: none"> ✓資金確保と人的確保、地域の実情に応じた対応が課題 	<ul style="list-style-type: none"> ✓里山林管理事業の実行率が低調 	<ul style="list-style-type: none"> ✓主に市町からの要望が多い ✓人材・資金不足 コロナ禍の影響により活動低調 	<ul style="list-style-type: none"> ➤地域の実情に応じた里山林管理への支援を検討
森林所有対策事業	<ul style="list-style-type: none"> ○これまでの実績 H30～R3実績：2,304ha（実行率100%） ○課題 <ul style="list-style-type: none"> ✓境界等が不明な森林が増加 	<ul style="list-style-type: none"> ✓地籍調査の重要性の高まり 	-	<ul style="list-style-type: none"> ➤引き続き、森林の地籍調査を着実に実施
譲与税	<ul style="list-style-type: none"> ○これまでの実績 R元～R3市町執行率：41%（積立59%） ○課題 <ul style="list-style-type: none"> ✓市町の活用促進 	<ul style="list-style-type: none"> ✓基金への積立が多い状況 	-	<ul style="list-style-type: none"> ➤引き続き、活用促進に向けた市町支援を継続

4 課題の整理と対応の方向性：未来の森整備事業

事業実施状況

◆ 計画に対する実績（H30～R03）

- ・ R03実績は、計画455haに対し、341ha（75%）
- ・ R03末計画1,640haに対し、1,443ha（88%）の進捗
- ・ R09までの全体計画6,000haに対し、24%の進捗

【とちぎの元気な森づくり未来の森整備事業実施状況】

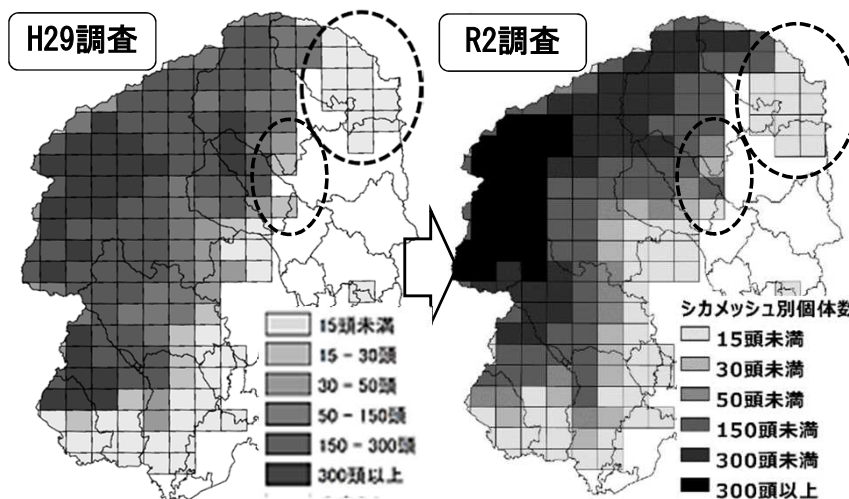
(ha)	H30	R01	R02	R03	計
計画	365	395	425	455	1,640
実績	342	374	386	341	1,443
進捗率	94%	95%	91%	75%	88%

事業実施上の課題

獣害対策

- ✓ 被害範囲が県西・県南から県北地域へと拡大傾向にある。
- ✓ 獣害がひどい地域では、森林所有者が被害を恐れ、皆伐・再造林に二の足を踏むことが多く、若返りが進みづらい状況であり、今後、獣害の拡大が森林の若返りを阻害する恐れがある。かつ、近年の物価高騰に伴い、獣害対策の資材単価も上昇しており、コストが増大している。

※シカ生息分布



見直しの方向性

- 税による最重要施策である再造林により、引き続き森林の若返りを図る。
その阻害要因として懸念される獣害対策の強化を検討することで、計画目標達成を目指す。

- ◆ 獣害の状況に応じ現地に合った対策の強化を検討

4 課題の整理と対応の方向性：里山林整備事業

事業実施状況

◆ 計画に対する実績（H30～R03）

- ・ R03末計画17,155haに対し、9,944ha（58%）
うち、整備事業は計画1,728haに対し、3,160ha（183%）
管理事業は計画15,427haに対し、6,784ha（44%）

事業実施上の課題

里山林の持続的な管理

- ✓ 事業期間(5年間)であるが、担い手の高齢化等に加え、コロナ禍の影響により、団体の活動自粛、中止など、活動が低調。持続可能な活動に向けた取組の継続(延長)の要望がある。

【とちぎの元気な森づくり里山林整備事業実施状況】

(ha)		H30	R01	R02	R03	計
整備事業	計画	350	401	458	519	1,728
	実績	574	772	856	958	3,160
	進捗率	164%	193%	187%	185%	183%
管理事業	計画	4,235	3,981	3,721	3,490	15,427
	実績	1,854	1,752	1,676	1,502	6,784
	進捗率	44%	44%	45%	43%	44%
計	計画	4,585	4,382	4,179	4,009	17,155
	実績	2,428	2,524	2,532	2,460	9,944
	進捗率	53%	58%	61%	61%	58%

見直しの方向性

- 担い手の高齢化等に加え、コロナ禍による影響を踏まえ、地域の実情に応じた里山林管理への支援を検討する。
- ◆ 高齢化や後継者不足、活動資金不足に加え、コロナ禍の影響で、活動が低調であったことを踏まえ、管理事業の支援について検討する。

4 課題の整理と対応の方向性：森林環境譲与税

活用状況

◆ 活用実績（R元～R03）

- ・ 譲与額計1,602,774千円に対し、執行額730,028千円(46%)
うち、市町は譲与額計1,346,344千円に対し、553,322千円(41%)
県は譲与額計256,430千円に対し、176,706千円 (69%)

譲与税の課題

譲与税の有効活用

- ✓ 譲与税の活用状況に注目集まる中、基金への積立が多い状況。
- ✓ 市町では専門知識を持った林政担当職員の不足や事業実施に関するノウハウが不足

【森林環境譲与税の活用状況】

(千円)		R01	R02	R03	計
市町	譲与額	256,214	544,482	545,648	1,346,344
	執行額	61,822	176,906	314,594	553,322
	執行率	24%	32%	58%	41%
県	譲与額	64,056	96,084	96,290	256,430
	執行額	6,875	83,392	86,439	176,706
	執行率	11%	87%	90%	69%
計	譲与額	320,270	640,566	641,938	1,602,774
	執行額	68,697	260,298	401,033	730,028
	執行率	21%	41%	62%	46%

見直しの方向性

- 譲与開始から3年実施し実績が徐々に増加していることから、引き続き活用促進に向けた市町支援を継続する。なお、県民税との役割分担(使途整理)については、今後の実績、効果によりその必要性を検討することとし、中間見直しにおける再整理は実施しない。
- ◆ 令和2年度より譲与税事業の取組が実施されていることや活用実績が増加傾向にあることから、現事業の促進や人材育成・木材利用等における新たな活用など市町の支援を継続する。

4 課題の整理と対応の方向性

課題の整理

(課題 + 委員のご意見 + 意向調査結果)

対応の方向性

獣害対策

○野生獣被害の拡大は森林の若返りを阻害

県民税事業

未来の森整備事業

・現場に合った獣害対策を検討

里山林の持続的な管理

○担い手の高齢化等、コロナ禍の影響で活動が低調、持続可能な活動に向けた取組の継続

里山林管理事業

・地域の実情に応じた支援を検討

譲与税の有効活用

○森林経営管理制度、木材利用、人材育成など約5割を活用、基金への積立が多い

譲与税の活用促進

・市町支援の継続